他者の心的状態の推測における性格情報の利用

— 自閉症傾向からの検討 —

福田 春奈¹・寺澤 悠理²・梅田 聡²

(¹慶應義塾大学大学院社会学研究科・²慶應義塾大学文学部)

キーワード：心の理論・性格情報・自閉症スペクトラム障害

The Use of personality information for reading mind: autism personality traits

Haruna FUKUDA¹, Yuri TERASAWA², Satoshi UMEDA²

(¹ Graduate School of Human Relations, ² Department of Psychology, Keio University)

Key Words: theory of mind, personality information, autism spectrum disorder

目 的

近年、自閉症スペクトラム障害の比較的軽度な症例においては、従来の心の理論課題を通過する傾向が報告されている。一方で心の理論課題を通過する症例においても、日常生活での対人関係には依然として困難を抱えている。皮肉の文章を使用した研究では、自閉症症例において対象の職業情報を心情の推測に利用する傾向の乏しさが、社会的場面での困難に繋がっていると示唆されている (Zalla et al, 2014)。

日常生活では同じ行動・発言であっても、対象人物の性格によってその意図は異なり、人物ごとの意図を適切に推測することが求められる。しかしながら、皮肉以外での社会的場面や、職業に限定しない対象の性格知識を用いた研究は少ない。本実験では、性格に関する知識を有している対象の心情を推測する際に、性格知識を利用する程度が自閉症傾向によって影響を受けるのかを検証した。日常生活の場面をテーマとした独自の文章を用いて検討を行った。

方 法

参加者 18-20歳の大学生17名(うち男性8名)が参加した。

手続き 参加者は、印象形成課題を行った後、心の理論課題を行った。印象形成課題では2名の架空の人物に関して、それぞれネガティブ・ポジティブな印象を与えるエピソード(予備実験により、個人差の影響を受けにくいものを選定)を呈示した。その後各人物の印象の評定(ポジティブ・ネガティブな形容詞について0-6のリッカート尺度)を行った。心の理論課題では、先程のポジティブ人物・ネガティブ人物・もしくは印象形成を行っていない人物(3条件)の登場する文章(13種類)を呈示し、登場人物の心情について口頭で自由に回答させた。その後、再度人物に関する印象評定を行った。最後に参加者は自閉症質問紙(AQ)に回答した。

課題の評価 登場人物の言動の意図に関する各質問について一定の評価基準を設け、その言動に、よりネガティブな意図を見出す割合を算出した。

結 果

本研究では参加者のAQ得点での中央値18点を基準に、22点以上をAQ高群(N=7)、17点以下をAQ低群(N=6)とした。

<印象形成課題> ネガティブ人物において「悪意のある」評定値が心の課題前後ともに有意に高かった($p < .05$)。ポジティブ人物において「思いやりのある」評定値が心の課題前後ともに有意に高かった($p < .05$)。また、AQ低・高群間での印象の評定値に有意な差は認められなかった。

<心の理論課題> 分析にあたり、13種類の文章のうち、印象形成なし条件(文脈による推測のみ)においてよりポジティブに捉えられた文章6種類をポジティブ文章(ネガティブに捉える割合が平均25%)、他6種類を中立な文章(ポジティブに捉える割合が平均50%)に分類した。

ポジティブ文章にネガティブな意図を見出す割合に関する、人物(ポジティブ・ネガティブ人物)×群(AQ低・高群)の2要因分散分析の結果、人物の主効果及び交互作用が有意であった($p < .05$)。単純主効果の検定の結果、AQ高群はAQ低群よりも、ネガティブ人物が対象人物である際に、ポジティブな文章にネガティブな意図を見出す割合が有意に低かった(Figure1)。

Figure1. ポジティブな文章において、ネガティブな意図を推測した割合

考 察

<印象形成課題> 本研究では、印象形成においてAQ低・高群間において有意な差が認められなかった。そのため、性格の知識の獲得に自閉症傾向は影響しないと考えられた。

<心の理論課題> 本研究では、自閉症傾向の高い参加者において、ポジティブな文脈(例：自分の作業をしなくても大丈夫?という気遣い場面)において、性格情報を利用して、ネガティブな意図を読むこと(例：そろそろ帰りたい)の困難が示された。日常生活では対象人物の性格に応じて心情の推測を変化させ、時には表面上ポジティブな意味合いであっても裏の意図を推測することが重要である。この結果から、自閉症症例においては、人物の性格情報を用いて心的状態の推測を変化させる柔軟性の乏しさが、円滑なコミュニケーションや良好な社会関係を築くことの困難に繋がっている可能性が示唆された。

引用文献

Zalla, T., Amsellem, F., Chaste, P., Ervas, F., Leboyer, M., & Champagne-Lavau, M. (2014). Individuals with Autism Spectrum Disorders Do Not Use Social Stereotypes in Irony Comprehension. *PLoS one*, **9**(4), e95568.